

配送センター新設に合わせ、初の自社工場を設置 道内のニーズに即したオリジナル商品の開発を進める

イオン北海道株式会社 様 「イオン石狩PC」(北海道石狩市)

イオン北海道様は、総合スーパー「イオン」や食品スーパー「マックスバリュ」、小型スーパー「まいばすけっと」など、地域に合わせた多様な業態の店舗(2022年11月現在、167店舗)を北海道内に展開する、道内で売上最大規模のスーパーチェーンです。同社様では、2021年8月、北海道

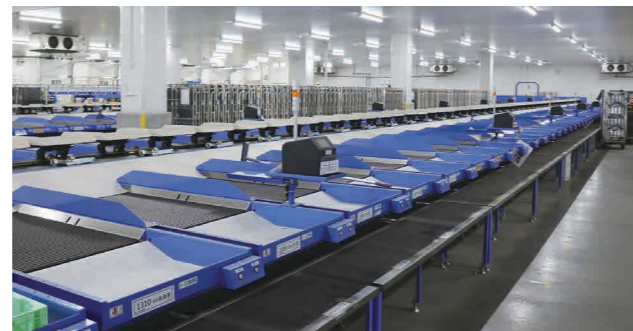
内のニーズに即したオリジナル商品の開発と、札幌圏への商品供給を目的にイオン石狩PCを稼働されました。1階は低温物流センター、2階は同社として初の自社食品工場でもある、畜産、デリカの商品製造を行うプロセスセンターにより構成されています。



▲「イオン石狩PC」全景 トラックバース合計77台



▲冷蔵倉庫オーバードア(+5°C温度管理)



▲マテハン自動仕分けシステム導入



◀冷蔵倉庫(+15°C温度管理)
冷却器+ユニットヒーターで温度管理

冷蔵倉庫 電子コントロールパネル
(左側)で温度コントロール



▲2階アウトバック製造室

店内加工不要のオリジナル総菜を供給、店舗作業を大幅に軽減する

イオン北海道様では、石狩PC稼働前までは、江別市にある配送センターから、全道に商品を供給していました。売上規模の拡大に伴い、新たに配送センターを設けられることになり、その際、企画から製造・販売まで自社で行うデリカ商品の強化を図られていた同社様では、自社の食品工場の併設を決められました。

現在、同PCでは、商品部のバイヤーの方の協力のもと商品開発部が中心になって、畜産・デリカの開発、および製造が行われています。店

内加工の必要ない状態で出荷されるため、店舗ではそのまま商品を並べるだけで済み、マンパワーの軽減につながっています。また、北海道らしい牛肉・豚肉のオリジナルブランド化の取り組みも進んでおり、札幌市近郊のイオン、イオンスーパーセンター、マックスバリュ計54店舗へ商品供給が始められています。

一方、配送センターの運営については、新たに自動仕分けシステムが導入されました。構内作業の効率化が図られ、前日夜までに仕分けを終えることができ、翌日朝いちばん

に店舗に届けられる体制が構築されています。

石狩PCの配送エリアは、北は滝川地区、南は室蘭、函館地区まで、北見地区、釧路地区については、従来からの江別配送センター様がカバーされています。

弊社エンジニアリング部門では、同センターの作業環境に配慮した低風速ユニットクーラー、ソックダクト、センサムセイバー集中監視システムなど、冷凍冷蔵庫、防熱結露対策と多岐にわたってお手伝いさせていただきました。



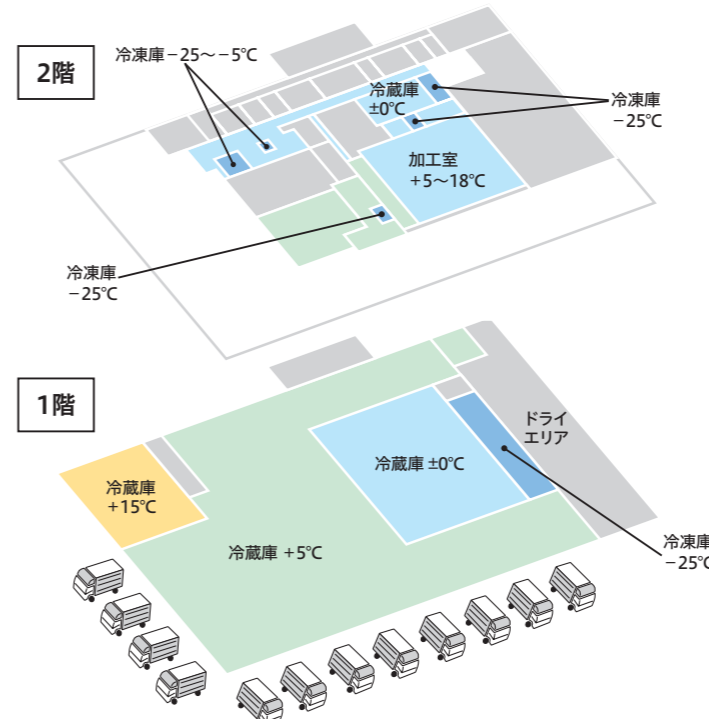
▲冷凍・冷蔵庫の集中監視システム
(センサムセイバープレミアムII)



▲バース部ドックシェルター(本体と拡大)



▲屋上に冷凍機を設置



■施設概要

所在地	北海道石狩市新港南2丁目9番4号
稼働年月	2021年8月18日 物流センター稼働 2021年8月24日 畜産及びデリカのプロセスセンター稼働
敷地面積	121,636㎡(36,795坪)
建物面積	20,139㎡(6,092坪)
1階 冷蔵エリア	13,136㎡(3,974坪)
1階 冷凍エリア	535㎡(162坪)
2階 冷蔵エリア	5,606㎡(1,696坪)
2階 冷凍エリア	243㎡(74坪)
納入設備	冷凍冷蔵庫規模 5,906坪 (冷凍庫:236坪・冷蔵庫:5,670坪) 集中監視システム (センサムセイバープレミアムII×3台) 一体空冷式スクロール冷凍機×37台 (1,177馬力) 冷却器×141台 (内ソックダクト対応23台) ドックシェルター×77台 電動防熱扉×58面